

阿寒町でバナナづくりに挑戦

岡山市の事業者の新しい技術を使って

阿寒町の農業法人が、今年からバナナの生産に取り組み始めます。南方のフルーツを北国でつくるために、岡山市のD&Tファームという会社が開発した技術を活用します。岡山市を観光交流のために親善訪問した村上かずしげ議員など3名の市議が、実際にバナナの生産に取り組んでいるD&Tファームを視察、新しい技術などについて説明を受け、施設を見学しました。

皮ごと食べられる一本600円のバナナ

皮ごと食べられて糖度は25度（一般のバナナは15度）、一本の価格が600円もする「もんげーバナナ」。テレビでも取り上げられています。

普通は実が青いうちに取ってしまつて日本に輸入しているバナナですが、この会社では黄色く熟すまでハウスのなかで栽培してあるので、糖度が高くなります。農薬を使っていませんので、皮ごと食べることもできます。

一度、種子を凍結して

その栽培方法は特許にもなっています。種子をいったんマイナス60度まで温度を下げて、その後解凍すると、低温でも耐



得られる性質と、通常の3倍の成長スピードに変わるのだそうです。

バナナは株で育てるものですが、一つの株で3年間で5回、実を取ることができます。阿寒町の酪農の農業法人が、この株

と技術を導入して、バナナ栽培に挑戦します。

応用範囲は広く

バナナだけではなく、カカオ、コーヒーをはじめ、様々な植物



栽培中のコーヒー豆

に応用を広げ、いまはシベリアやアラスカでの小麦栽培の実験をしているとのことでした。

阿寒の農業法人は、最終的には、この技術を牧草やコーンの栽培に活用できないかとも、考えているようです。

議会のICT化、ペーパーレス化を考える

いま、全国の地方議会でも、iPadなどの機器を全議員に配布して、そこに議案や資料をデータとして提供、一切の印刷物をなくそうとの試みが始まっています。

印刷物を減らすことそのものは賛成できますが、全議員に数万円もする電子機器を、貸与とはいえ配布することに、市民の理解が得られているでしょうか。

岡山市議会は、来年度から試行的にICT化が始まります。二つの委員会では、委員会室に電子機器を持ち込んで、それを見ながら審議をします。また、議案等については印刷物は配布せず、データのみ。印刷物が必要な人は、自分の責任で印刷します。機器は全議員分をリースする考えです。

共産党議員団は、経費の掛かる問題でもあり、行政側と歩調をあわせ、市民理解を得ることが前提と考えています。



2019.11.24

村上かずしげ通信

発行 日本共産党市議団 23-5212